

カリキュラムマネジメント

「～マネジメント」
いたるところで聞く。

マネジメントを岡本薫氏は、
「目標を設定し、適切な手段を選択・実施して、その目標を達成していくプロセスを
意味する。」
と述べている。

カリキュラムをマネジメントする、
カリキュラムでマネジメントする、どちらか。

教務主任を経験すると、どちらも考えることができる。

※学校を運営する場合、校内の学習や活動の指導計画を立てるだけにとどまらない。
地域の協力や隠れたカリキュラムも含め、学校運営に関わりを持たせるのが一般的で、
成果を評価し、改善を図ることをくり返して学校教育目標達成を目指すため、カリキ
ュラムという語を用いる。

ただ、教務主任という立場では、学校教育目標達成のためカリキュラム「を」マネジメ
ントする感覚が強く、校長は、「で」学校全体をマネジメントする感覚が強く、組織マ
ネジメント的な手法も関わってくる、という印象を持つ。

ここでは、田村知子氏の講演を加味しながら、「を」の感覚で述べたい。

1998年あたりから、「特色ある学校づくり」がうたわれた。カリキュラムをつくり、
学校を動かし、変えていくという方向である。

従来から、（我が国は）何を教えるかではなく、どのように教えるかに関心があり、
特色づくりに伴い、「何を」考えることが出てきた。その切り口として、
計画されたカリキュラム…学校、教育課程
実施されたカリキュラム…教室、授業
学ばれたカリキュラム…子ども（児童・生徒）
に注目された。

教務主任は、校長とともに、カリキュラムを支える諸条件
人、物、金、文化（地域、学校の伝統等）、共有（オープン化）

↓

↓

組織構造 組織文化（同僚性）、カリキュラム文化（指導観、子供観）
を考えることになる。

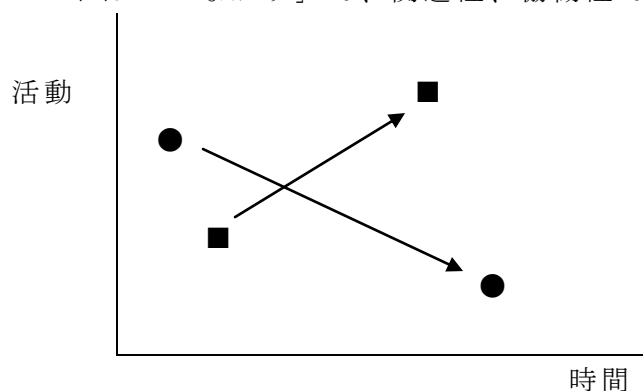
カリキュラムマネジメントを田村氏は、

「各学校が、学校教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営みである。」

と述べ、カリキュラムを実行化するための条件整備の対応が大切とした。

では、どのようにマネジメントするか。

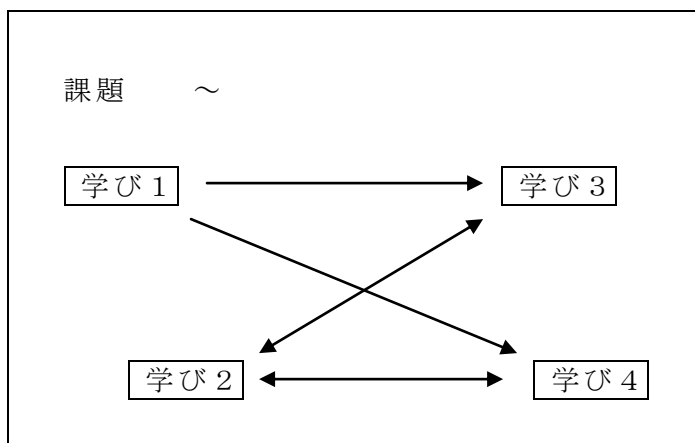
キーワードは「つながり」で、関連性、協働性である。



視点①

学習を流すのではなく、子どもにとって学びのつながりを持たせるようにする。

子どもは学びをつなげているだろうか？



視点②

- ・ 1つの教科内で、学習の基礎（計算、グラフ作成等）がどのようにつながるか
- ・ 教科、活動間で課題（環境、キャリア、言語活動等）がどのようにつながるか

※中央研修のカリキュラムマネジメントの協議は、

道徳、言語活動、キャリア教育、総合的な学習の時間 でつながりをマネジメントする（ようだ）

取り組みの例として

例① 学力向上

- ・子どもの実態を知る 例 自信、理解、問題解決の経験、自宅学習 無し
- ・実態に対する対応 例 しっかり教えよう
- ・問題解決型の授業形態へ 例 明確な学習課題の提示、学びの流れづくり、
自力解決（個別指導）、集団解決

例② 先生の指導力向上

- ・本時だけでなく全体計画の見直し
 - ・指導案 共通の書き方、学力調査結果・学習指導要領をもとに
 - ・整理会 1時間
 - 課題のみ（くどくど話さない）（10分）
 - ワークショップ（例 付箋等）（10分）
 - 改善案（10分）
 - 指導修正（30分）
- 模造紙上で行い、
職員室等に掲示

例③ 時間をつくる ※こんな例があるそうです

- ・一人一役制 即決
- ・直後プラン すぐ反省会、来年度の素案完成
- ・会議無し 担当者→主幹→管理職
- ・1月から始まる仕事歴（4月からはじめていては遅すぎる）
- ・2、3月は子どもと触れ合う時期

例④ 経験上のアイデア（私の経験）

- ・修正やアイデアは、ペーパーに赤ペンを入れる
電子データは、修正したのかしてないのか分からなくなる場合が多々ある。
- ・手帳にメモする（記録に残らないちょっとした改善や管理職の判断等）※重要！
- ・書類ファイルは、書類を束ねる物ではなく、付箋や赤ペンを入れ、メモる物
- ・自分の教科だけで考えないスタンスが大切

カリキュラムマネジメントまとめ

- ・具体的な
目標の明確化、共有化
からスタート
- ・当事者が参加、みんなでつくる
- ・best より better を！